2023 AIIT PBL

情報アーキテクチャコース
中 鉢 PT

主担当教員：中鉢 欣秀 教授
副担当教員：嶋津 恵子教授
柴田 淳司 助教
黄 緒平 助教

アジャイル型プロダクト開発の実践と学修の成果

【PT概要】

アジャイル開発の精神である「顧客にとって価値のあるプロダクト」、また「持続可能な開発」の開発技法習得を目指す。
前期は教員がプロダクトオーナ（PO）となり「顧客満足度」に主眼をおきつつアジャイル開発の基礎を学修。
後期は学生がPOとなり、上流工程の情報化企画からシステム開発を行った。

【前期の活動】

●アイディアファーム

「アイデアファーム」とは埋もれてしまうアプリのアイデアをカタチにする仕組みである。
例えば、スキル不足でアイデアをカタチにできない、スキルはあるがアイデアが浮かばない。そういった経緯から埋もれてしまうアプリのアイデアを実現するコミュニティサイトである。

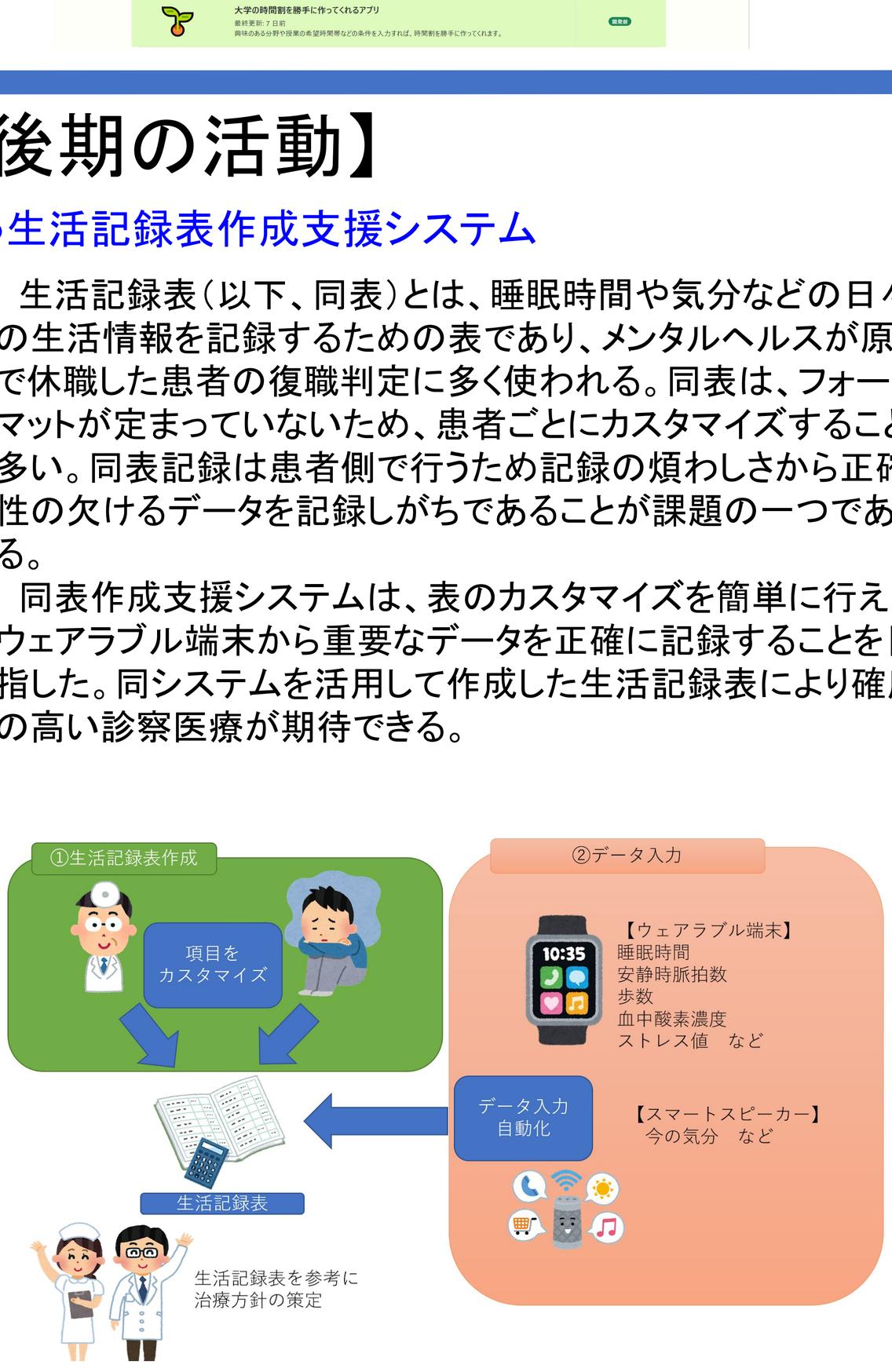
【開発の特徴】
教員がPOを担当することで、緊張感を持った開発を行った。
「PO満足度」の導入（スプリント毎にPOの満足度を定量的（5段階）に評価してもらう仕組み）。

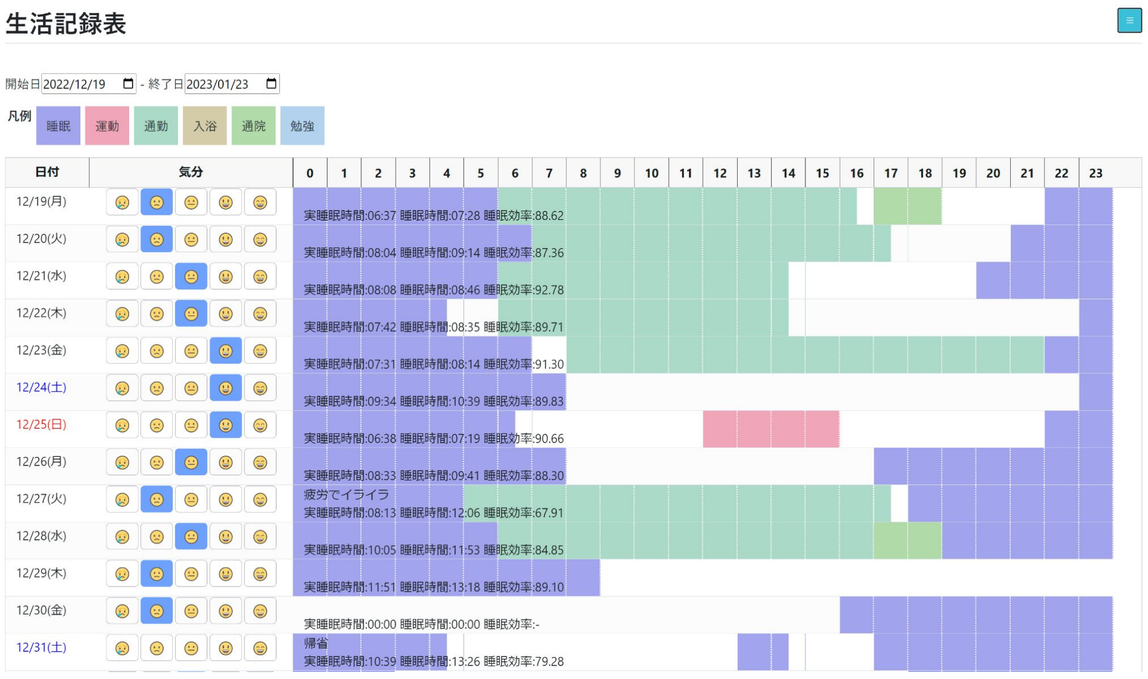
【成果】
プロダクトの開発を通して、スクラムの各種イベントや管理ツール（Jira）の使い方等、スクラム開発の基礎を学んだ。また、プロジェクト計画時に設定した「PO満足度（平均）」の指標で目標4.00点に対して3.94点を取得した。リリースは前期の計画期間内に行うことができた。リリースしたプロダクトは他大学の学生に実際に使用して貰い、高評価のフィードバックを得た。

【後期の活動】

●生活記録表作成支援システム

生活記録表（以下、同表）とは、睡眠時間や気分などの日々の生活情報を記録するための表であり、メンタルヘルスが原因で休職した患者の復職判定に多く使われる。同表は、フォーマットが定まっていないため、患者ごとにカスタマイズすることが多い。同表記録は患者側で行うため記録の煩わしさから正確性の欠けるデータを記録しがちであることが課題の一つである。
同表作成支援システムは、表のカスタマイズを簡単に行え、ウェアラブル端末から重要なデータを正確に記録することを目指した。同システムを活用して作成した生活記録表により確度の高い診察医療が期待できる。



【開発の特徴】
学生がPOとなりプロジェクトを学生主体で推進した。

【成果】
学生が主体となりゼロからシステム企画を行い、学内外の有識者・医師・患者へインタビューを継続的に行った。同活動を通じ、アジャイル開発における上流工程の知見を得た。
開発では前期で実践したアジャイルの基礎から発展し、開発メンバーがPOやステークホルダーの視点に立ち、提案型の開発を行った。加えて、プロダクトの性質や開発体制に応じた作業効率のよいプロダクトバックログの分割手法を模索・実践。新規性の点では、ウェアラブル端末やスマートスピーカーの利活用が挙げられる。
プロダクトの価値を高めるために評価用のテスト版をリリースし、医師・患者からフィードバックを得てプロダクトに反映を行った。